

# 浜銀総研 News Release



2024年12月24日

## 横浜DeNAベイスターズ日本一による経済波及効果

### — 経済波及効果は全国で517億円、神奈川県で246億円 —

#### 要 旨

2024年、横浜市に本拠地を置く横浜DeNAベイスターズは、阪神タイガース、読売ジャイアンツとのクライマックスシリーズを制し、7年ぶりの日本シリーズ進出を果たした。そして日本シリーズでは、横浜DeNAベイスターズが福岡ソフトバンクホークスを打ち破り、1998年以来、26年ぶりの日本一に輝いた。横浜市内では百貨店や商業施設、家電販売店などで盛大な優勝記念セールが開催され、また11月30日には横浜ハンマーヘッドから日本大通りにかけて優勝パレードが開催されるなど、地元・横浜は歓喜に溢れた。

このような横浜DeNAベイスターズの活躍は、地域に住む人や地域で働く人、地域を訪れる人に元気と活力を与え、地元・横浜経済にも様々なプラス効果を及ぼしている。そこで浜銀総合研究所では、今般、横浜DeNAベイスターズのご協力を得ながら、日本銀行横浜支店と共同で、横浜DeNAベイスターズの日本一による経済波及効果を試算した。

試算によると、①日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者の消費額（チケット、飲食、物販、交通費等）、②横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外での消費額（飲食、物販）、③日本一優勝セールにおける消費額（百貨店、スーパー、家電販売店等）、④日本一優勝パレードの来場者による消費額（飲食、物販、交通費等）など、横浜DeNAベイスターズ日本一に伴う支出増加額の合計は全国で280億円となる。また、こうした新規需要を基に経済波及効果を計測すると、全国で発生する経済波及効果の総計は517億円、また神奈川県内への経済波及効果は246億円となった。

#### 【本件についてのお問い合わせ先】

（株）浜銀総合研究所 調査部 部長 湯口 勉  
特任研究員 北田 英治  
TEL 045-225-2375（調査部代表）

【試算の対象および新たな支出額の試算結果】

今回の経済効果の試算では、横浜DeNAベイスターズが日本一に輝いたことによる各種の支出増加額を、①日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者の消費額、②横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外での消費額、③日本一優勝セールにおける消費額、④日本一優勝パレードの来場者およびパレード連動企画による消費額等の4つに分けて推計した。具体的には次の通りである。

① 日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者の消費額

ここでは、横浜スタジアムで行われた日本シリーズ第1戦、第2戦、第6戦の観客（合計99,236人）によるチケット代、飲食費、グッズ等購入費、交通費、宿泊費を試算した。また横浜スタジアムで行われたパブリックビューイング（日本シリーズ3試合、クライマックスシリーズ8試合）の観客（約15万人）による飲食費、交通費を試算し、加算した。なお、横浜スタジアムにおける飲食費、グッズ等購入費、交通費は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングとマクロミルによる共同調査「2024年スポーツマーケティング基礎調査」の「スタジアム観戦にかかる出費」（1人当たりの金額）を参照し、この結果を利用した。

①横浜スタジアム来場者の消費額	
チケット代	775 百万円
飲食費	393 百万円
グッズ等購入費	282 百万円
交通費・宿泊費	593 百万円
合計	2,043 百万円

② 横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外での消費額

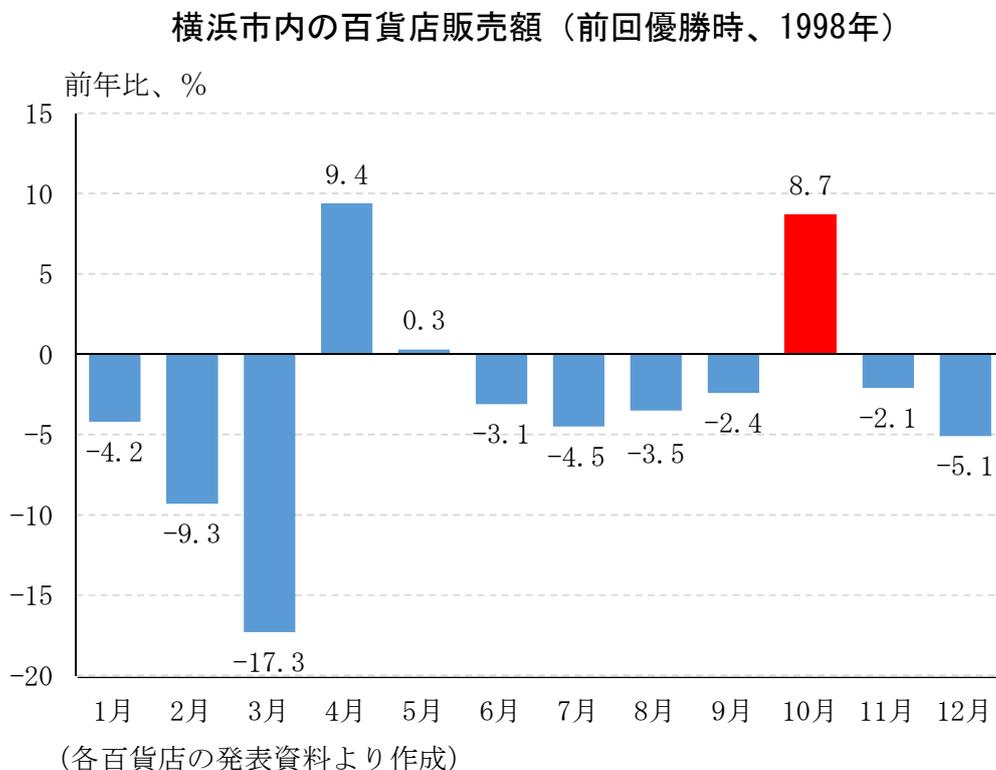
ここでは、全国の横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外における優勝に関連する消費額を試算した。対象となるのは、1.ポストシーズン（クライマックス、日本シリーズ）中のベイスターズファンによる飲食費増加額、2.優勝後の祝勝会等での飲食費と記念グッズ、食品、書籍等の購入費用、3.ドキュメンタリー映像「勝ち切る覚悟」の映画館での鑑賞などに関する支出とした。なお、全国の横浜DeNAベイスターズのファン人口については、前出の「2024年スポーツマーケティング基礎調査」（三菱UFJリサーチ&コンサルティングとマクロミルによる共同調査）の「球団別プロ野球ファン人口推計」を参照し、115万人とした。

② ベイスターズのファンによる球場外での消費額	
ポストシーズン中の飲食増加額	3,450 百万円
優勝後の祝勝会やグッズ等購入の消費額	10,557 百万円
ドキュメンタリー映像の鑑賞等	798 百万円
合計	14,805 百万円

### ③ 日本一優勝セールにおける消費額

ここでは、横浜市内を中心とする百貨店や商業施設、家電販売店などで行われた優勝記念セールを推計した。前回、日本一となった1998年の横浜市内の百貨店販売額を振り返ると、9月まで前年割れが続いていた百貨店販売額が、優勝セールが行われた10月には前年比+8.7%と大幅な増加に転じている（図表1）。これを参考に、今回の優勝セールの試算においては、経済産業省の「商業動態統計」を用いて、24年11月の横浜市内の百貨店と大型スーパーの販売額が前年比で10%押し上げられると想定した。また、今回は大手家電販売店でも大規模な優勝セールが行われていることを鑑み、11月の神奈川県内の家電大型専門店の販売額が優勝セールによって5%押し上げられると想定した。

図表1 前回優勝時の百貨店販売額



③日本一優勝セールにおける消費額	
百貨店、大型スーパーの販売増加額	7,527 百万円
家電大型専門店の販売増加額	1,358 百万円
合計	8,885 百万円

④ 日本一優勝パレードの来場者及びパレード連動企画による消費額等

ここでは、11月30日に開催された日本一優勝パレードの参加者（約30万人）による1.飲食費、お土産等購入費、交通費、宿泊費、また2.日本一優勝パレードの特別観覧チケット、クラウドファンディングを通じたパレードへの参加や記念品の購入等、さらに3.パレード会場の交通誘導や安全管理等の事業費を盛り込んだ。なお試算に当たっては、横浜市の各所で行われた「横浜DeNAベイスターズ日本一 優勝パレード2024 連動企画」<sup>1</sup>による相乗効果も加味した。

④日本一優勝パレードの来場者及びパレード連動企画による消費額等	
飲食費	900 百万円
お土産等購入費	600 百万円
交通費・宿泊費	555 百万円
特別観覧チケット・クラウドファンディング	85 百万円
交通誘導や安全管理等の事業費	100 百万円
合計	2,240 百万円

以上を総括すると

- ① 日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者の消費額 20億4,300万円
- ② 横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外での消費額 148億 500万円
- ③ 日本一優勝セールにおける消費額 88億8,500万円
- ④ 日本一優勝パレードの来場者による消費額 22億4,000万円

となり、合計で279億7,300万円の新たな需要が生み出されたことになる。

【新たな支出の増加によってもたらされる経済波及効果】

こうした新規需要を基に経済波及効果を試算したのが図表2である。ここでは新規需要発生による生産増の効果（直接効果）と、直接効果に伴って部品や原材料等の生産が次々に誘発される1次波及効果、直接効果と1次波及の結果として生まれる所得増が人々の消費増へとつながり、新たな生産活動を誘発する2次波及効果に分けて示している。これらの合計が経済波及効果の総額となる。なお、今回の経済波及効果の試算には、全国の産業連関表と神奈川県産業連関表から当社が作成した「2地域間産

<sup>1</sup> 横浜市内では、優勝パレードとの連動企画として、市内施設の特別ライトアップや花火の打上げ、中華街、元町、馬車道などの商業施設におけるキャンペーンなどが実施された。

業連関表」を用いている。これにより、全国と神奈川県の効果を一括で計算できるほか、地域間の産業取引を通じた生産増の波及を含めた経済波及効果が推計できる。

図表2が示すように、横浜DeNAベイスターズ日本一の全国で発生する経済波及効果の総計は517億2,100万円、うち直接効果が247億5,400万円、1次・2次の波及効果が合計269億6,800万円となる。また、神奈川県内で発生する経済波及効果の総計は245億5,000万円、うち直接効果が159億5,500万円、波及効果が合計85億9,500万円となる。

図表2 横浜DeNAベイスターズ日本一の経済波及効果

単位：百万円

	日本シリーズ優勝に伴う効果			
	合計	ポストシーズン、 日本シリーズ	優勝セール	優勝パレード
全国				
需要発生額	27,973	16,848	8,885	2,240
生産誘発額（＝経済波及効果）				
直接効果	24,754	15,436	7,224	2,094
1次波及	17,957	11,579	4,855	1,523
2次波及	9,011	5,706	2,575	729
<b>合計</b>	<b>51,721</b>	<b>32,722</b>	<b>14,654</b>	<b>4,346</b>
うち神奈川県分				
需要発生額	20,926	10,263	8,885	1,778
生産誘発額（＝経済波及効果）				
直接効果	15,955	8,580	5,447	1,927
1次波及	5,110	2,864	1,610	636
2次波及	3,485	1,872	1,237	376
<b>合計</b>	<b>24,550</b>	<b>13,316</b>	<b>8,295</b>	<b>2,939</b>

出所：浜銀総研作成

### 【今回の試算の特徴、来シーズンへの期待】

今回の経済波及効果の試算における大きな特徴は、①全国の横浜DeNAベイスターズのファンによる消費額を新規需要に含めたことと、②地域間産業連関表を用いた波及効果（間接効果）を計算したことにある。いずれも、APIR関西地域間産業連関表プロジェクトチームによる「2023年阪神・オリックス優勝の地域別経済効果」などで用いられている計算手法を参考にさせていただいた。

「2023年阪神・オリックス優勝の地域別経済効果」では、日本シリーズによる経済効果だけでなく、リーグ優勝やクライマックスシリーズ開催の経済効果も含めて計算しており、金額が一段と大きくなっている。来シーズン、横浜DeNAベイスターズがセントラル・リーグで優勝し、日本シリーズで日本一になれば、経済波及効果は今回

より一層上回るものとなろう。来シーズンの横浜DeNAベイスターズの更なる活躍を大いに期待したい。

### 【謝辞】

今回の経済波及効果の試算に当たっては、横浜DeNAベイスターズに多大なるご協力をいただいた。今回、横浜スタジアムで行われたパブリックビューイング（日本シリーズ3試合、クライマックスシリーズ8試合）の観客による消費額などを試算に含めることができたのは、横浜DeNAベイスターズのご協力のお陰である。

また今回、共同で調査にあたった日本銀行横浜支店の皆様からは、日本一に伴う新規需要発生額を計算する上での様々なアドバイス等をいただいたほか、経済波及効果の算出過程に関するノウハウの共有と妥当性のチェック等をしていただいた。

横浜DeNAベイスターズと日本銀行横浜支店のお力添えがあったからこそ、今回の経済波及効果の試算をまとめることができた。あらためて謝辞を申し上げたい。

### 参考文献

- 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングとマクロミルによる共同調査「2024年スポーツマーケティング基礎調査」（2024年10月）
- APIR関西地域間産業連関表プロジェクトチーム「2023年阪神・オリックス優勝の地域別経済効果－APIR関西地域間産業連関表による分析－」APIR Trend Watch No.90（2023年10月）
- APIR関西地域間産業連関表プロジェクトチーム「決定版：2023年阪神・オリックス優勝の地域別経済効果-リーグ優勝、ポストシーズン、優勝関連セール及び優勝パレードの総合分析-」APIR Trend Watch No.91（2023年12月）
- 中央調査社「第32回 人気スポーツ調査」（2024年4月）
- 財団法人関西経済研究所「関西地域間産業連関表の作成方法2000年版」（2008年11月）
- 武田健太「地域内産業連関表を用いた県内外地域間産業連関表の作成とそれによる分析－熊本県内外地域間の経済構造と熊本城マラソンの経済波及効果－」，熊本学園大学経済論集，第23巻，第1－4合併号，（2017年3月）
- 総務省「平成27年（2015年）産業連関表（－総合解説編－）」（2020年1月）
- 神奈川県「平成27（2015）年神奈川県産業連関表報告書」（2020年6月）
- 神奈川県「平成17（2005）年神奈川県地域間産業連関表」（2011年2月）

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願いいたします。